

第 6 回山口県緩和ケアチーム研修会報告書

山口大学医学部附属病院
緩和ケアセンター事務局

開催概要

開催日時：令和 6 年 8 月 29 日(木) 18:00~19:00

主催：山口大学医学部附属病院緩和ケアセンター

後援：山口県健康福祉部医療政策課

開催形式：Web 会議システムによるオンライン開催

参加施設：国立病院機構岩国医療センター

山口県厚生農業協同組合連合会周東総合病院

地域医療機能推進機構徳山中央病院

山口県立総合医療センター

国立病院機構山口宇部医療センター

山口県済生会下関総合病院

医誠会都志見病院

山口県厚生農業協同組合連合会長門総合病院

山口大学医学部附属病院

受講者数：32 名(医師 6 名、心理師 2 名、看護師 14 名、薬剤師 3 名、リハビリ職員 1 名
管理栄養士 4 名、MSW2 名、)

プログラム

開会挨拶 山口県健康福祉部医療政策課 下川 直伯

18:00~19:00 特別講演

「地域 BCP のスズメ〜スタッフ、そして患者の生命と生活を守るために〜」

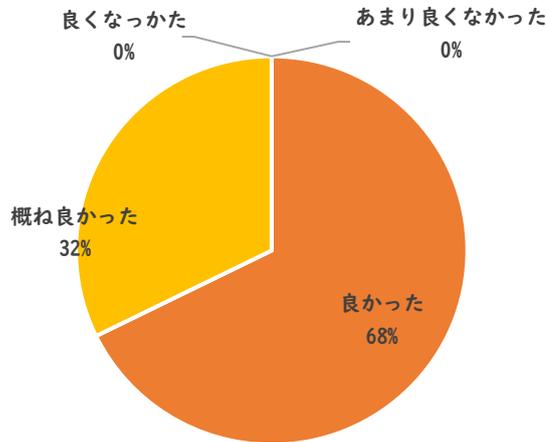
コミュニティヘルス研究機構 機構長・理事長
慶応義塾大学医学部衛生学公衆衛生学教室

山岸 暁美 先生

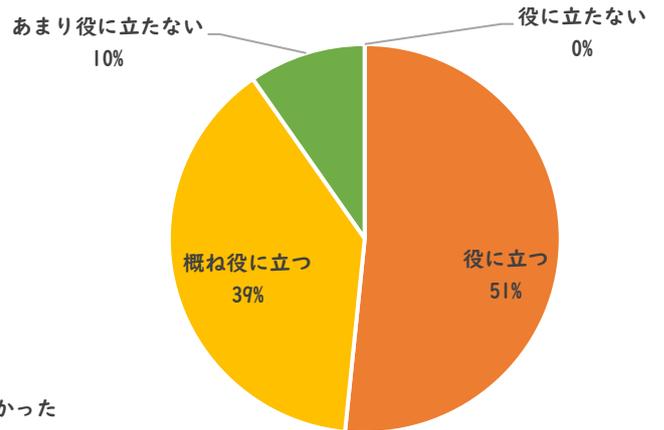
閉会挨拶 山口大学医学部附属病院 緩和ケアセンター 助教 山縣 裕史

アンケート

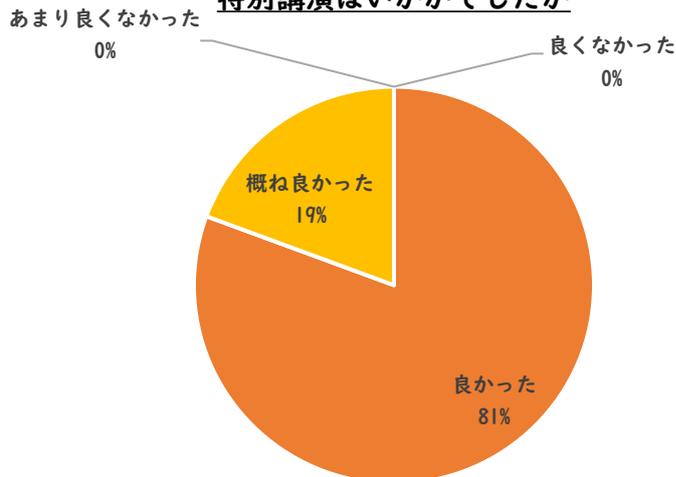
この研修会に参加してよかったですか？



この研修会で得たことは今後の緩和ケアチーム・緩和ケア病棟での活動に役立ちますか？



特別講演はいかがでしたか



緩和ケアチーム研修会で取り上げてほしいテーマや内容についてお聞かせください。

- ・終末期患者の在宅医療について
- ・心理的安全性について
- ・悪液質
- ・就労支援の現在、お金のこと
- ・心理的安全性、チーム作りや運営方法について学びたいです
- ・BSC となった患者へのアプローチの仕方など
- ・難治性疼痛に対する神経ブロックについて

- ・放射線治療について
- ・LGBTQ について
- ・地域での緩和ケア (コンパッション・シティ)
 - 雑誌「緩和ケア 7 月」に掲載されていた「まちで広がる緩和ケア」について。
- ・今回の地域 BCP 研修をうけて、自機関や地域で進められている BCP を共有したり、山口県の緩和ケアの BCP に関して今後どのようにチームで協働していくべきかグループワークを行ってはどうか。
- ・在宅での症状コントロール (痛みだけでなく、嘔気・嘔吐、倦怠感などメインに) について
- ・チームメンバーの各職種で対応すべき事項、実際の取り組み事例について
- ・AYA 世代がん患者に対する支援の仕方について
- ・症状緩和に関することについて
- ・化学療法の最新情報
- ・コミュニケーション
- ・食事に関する話題があれば是非知りたいです。海外の緩和チームではどうしているか、など日本以外の食事情も聞いてみたいです。

緩和ケアチーム研修会のご感想や、ご要望についてお聞かせください。

- ・最近は大変な災害も増えており、とても良いテーマの公演でした。いつもありがとうございます。
- ・とてもわかりやすく、参考になる講義であり大変勉強になりました。台風が接近し大変な中、研修会を開催していただきありがとうございました。
- ・記憶にも新しい能登半島地震での活動状況を踏まえて説明していただいたので、とてもわかりやすい講演でした。
- ・BCP についてこれまで全く知らないことばかりで勉強になりました。今回の学んだことを病院や県内でどのように活かしていくかについて他の参加メンバーと話せる場があれば学習が深まると思いましたので対面やグループワークなどあればよいと思います。
- ・大変勉強になりました。宇部市は、災害の少ない地域のため、災害時の支援を意識した事はありませんでした。全くなかった視点のお話であり、実状を聞いて良かったです。
- ・BCP はこれまであまりなじみがなかったので大変勉強になりました。能登地震など実際の震災における BCP の取り組みを聞くことにより平時からの準備が大切であることを感じました。災害時のことも考えたケアの支援、指導にも取り組んでいけたらと思いました。ありがとうございました。
- ・災害時の緩和ケアの実践について学習する良い機会になりました。今後も、学習を継続して

いきたいと思います。

- ・Zoomでの研修は仕事が終わって受講しやすいので助かります。病棟勤務で夜勤の都合もあり、なかなか受講するのも難しいですが今後もできるだけ参加したいと思います。
 - ・今回のお話を伺っていて、もともと山口県では緩和ケア医が少なく、災害時に関わらず、退職などで突然緩和ケア病棟が閉鎖の危機に陥ることもあり、地域全体で緩和ケアをどう継続していくか検討する必要があると感じました。
 - ・とても勉強になりました。
 - ・普段病院で勤務しており、体制やモノが整った状況しか想定していなかったのも、平時からの備えや対応を考えていくことは重要であると気が付いた。
 - ・山岸先生の講義は何度か拝聴したことがありますが、今回もとても勉強になりました。「平時からやっていないことは有事の際、実施するのか難しい」とありましたが、遠隔診療など訪問看護側は必要と思っても医師側がなかなか賛同されません。どのように働きかけたら変わっていくのでしょうか？地域全体のBCPも改めて見直す必要があると感じました。
 - ・有事の際に求められていること、日常より心がけることなど、実際に発生した事象をもとに、普段気づきにくい重要な事項について適切なお助言を頂くことができ、大変貴重な内容でした。
 - ・災害が起こることを想定した時、関わっている緩和ケアを必要とする患者さんには、どのように対応したらいいのか、普段から考えていないことが認識できました。平時のときからその準備をしておくことの大切さに気付かされました。まずは自分ができることは何かを考えて、出来ることを実践していきたいと思います。天候が悪い中にも関わらず、開催していただき、ありがとうございました。
 - ・事前にわかりやすい資料もいただき、現在進行形で行われている能登地震後の対応についても知ることができ、1時間ではあっと言う間の充実した研修会でした。
- また、機会があれば再度山岸先生のお話を聞きたいです。(今度は、南海トラフの対策も含めた内容などで)